

会議要旨書

会議名	令和 8 年度第 1 回三鷹市史編さん委員会
日時	令和 8 年 6 月 29 日（月）18 時 30 分～20 時 30 分
場所	三鷹市役所本庁舎 3 階市長公室
出席委員 （9 人）	土屋宏 Steele, Marion William 高田知和（オンライン参加） 椿田有希子 中野達哉 馬場憲一 榛澤茂量 福野明子 保坂一房
欠席委員 （1 人）	久保純子
行政職員 （8 人）	スポーツと文化部長 大朝摂子 スポーツと文化部調整担当部長 平山寛 生涯学習課長 八木隆 市史編さん室主査 下原裕司 同主事 中峰結 藤本大雅 同専門員 齋藤海歌 長嶺修
会議の公開・非公開	公開
傍聴人数	1 人
1 開会 土屋委員長より、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき会議の公開、会議録の作成、公開についての説明を行った。 2 報告 土屋委員長より、市史編集会議設置と委員の委嘱について報告した。 3 議事 （1）各専門部会の状況及びデジタルアーカイブについて （大朝スポーツと文化部長より、資料 1「各専門部会の状況及びデジタルアーカイブについて」の説明を行った。） 【土屋委員長】各部会ごとにできることから既に作業を始めている状況にある。進め方や詳細等ご意見ご指摘があればお願いしたい。 【A 委員】過去 2 回発行した市史の中身を検討した上で、今回の市史で取り扱うテーマを決定したのか。また、過去の市史編さんを行う上で得た知見や資料は確認したのか。 【大朝部長】過去の市史では、記述されている情報量について、時代によって偏りがある。今回の市史では、12 万年前の地形変遷から現代まで、通史的な形で資料を収集し市史を記述したい。今までに調査した成果をベースにと考えている。	

【A 委員】扱うテーマとして提示されていないものでも、調査すべき事項もあるように思う。後々修正・追加することは可能であるか。

【大朝部長】可能である。テーマは現時点での案であり、実際に何をどう扱っていくかは、各部会の先生方との議論を通して決めていく。

【A 委員】前回の市史を作った時の資料の所在は確認しているのか。

【大朝部長】1 回目の市史で使用した資料は図書館に、2 回目の市史で使用したものは教育センター内に全てではないが保管されていることが確認できている。

【A 委員】資料 1 で挙げられているテーマ以外の調査も必要なのではないだろうか。前回までの市史を基礎として、より細部まで調査を行い、新たな発見や調査結果がなければ、新しい市史としての役割を担えないのではないだろうか。また、市史の方向性を明確にした状態で調査を行う必要があるのではないか。

【土屋委員長】現状挙げているテーマは主だったものや現在作業を進めているものであり、部会での議論をお願いしつつ、それ以外の調査も行う必要があると考えている。時間が許す限り、十分な調査を行いたいと考えている。最終的にどう通史にまとめるかの方向性について、大きな方針を打ち出すためには、まず資料を収集・整理し、現状把握をすることが重要であると考えているので、現在行おうとしている調査を例示している。

【大朝部長】各部会の先生方にも現状を共有したうえで助言をいただきながら、今後の調査の方向性を決定したい。

【B 委員】原始・古代部会に近代まで含めた遺跡が入っていることの意図は。

【下原主査】発掘調査の手法で得られた考古資料については、考古学の手法を使う原始・古代部会で、まず分析する必要があるためである。

【B 委員】島屋敷など調査対象によっては分野を横断した調査となることが予想される。そのため、他の部会と協同して調査を行う体制を構築しておく必要があるのではないか。

【大朝部長】後ほど資料 2 を説明する際、総合調査について詳しく議論を行いたい。

【B 委員】また、字（あざ）誌について、近現代に分類されているが、ほかの時代にもまたがってくるのではないか。

【土屋委員長】現在はひとまずの役割分担として分類した形であり、分野横断的な調査については連携体制を整える予定である。

【C 委員】中近世専門部会において改めて全市的な文書調査は行う予定か。

【大朝部長】新しい資料の検索は行っていく。調査について、まずは今まで把握してきた資料の内、未翻刻なものの翻刻をして再評価することが重要であると考えている。

【C 委員】以前までの市史の調査において、記録としては残っているが現物が確認できない資料がある場合、それらの現状確認を行う予定はあるか。

【大朝部長】行う予定である。

【C 委員】字誌について、字誌単体で記述するのではなく、通史の中に記述する形をとるのか。

【土屋委員長】字誌の取り扱いについて具体的な進め方は決定しておらず、アドバイスをいただきながら決定したい。

（２）総合調査（案）について

（大朝スポーツと文化部長より、資料２「総合調査（案）について」の分野横断的な調査に関する説明を行った。）

【Ａ委員】総合調査で扱うテーマはどのように決定したのか。

【大朝部長】先生方からのアドバイスや過去の記録より、今回の市史に盛り込んだ方が良くと考えられる内容について現在記述している。

【Ａ委員】例えば三鷹の農業も１つのテーマになるのではないか。

【大朝部長】調査するテーマについては今後の議論の中で検討し、必要に応じて新たなテーマも対象に含めていく。

【Ｄ委員】現在の案はあくまでも出発点であり、内容をこの範囲に限定するものではないと認識している。今後、議論を重ねながら必要な事項を加え、内容を整理・充実させていく必要がある。

【Ｅ委員】総合調査の成果はどの部会に取り込まれるのか。

【大朝部長】例えば建築物であれば、専門とされる先生が担当される部会の担当となる予定である。

建築物について、過去に一度調査を行っているが民家等が主な調査対象であり、寺社関係の建築物については調査されていないものもある。それらについては、今回の市史で改めて調査を行う予定である。

【Ｅ委員】寺社や文書については普段なかなかまとめた調査を行うことが難しいため、市史立ち上げという好機を逃すことなく、所在調査や悉皆調査を行うとよい。

【土屋委員長】事務局側としても、なるべく多くの調査は行いたいし、実際そのスタンスで動いている。しかし調査を行うにあたって、完成形のイメージをある程度固めた状態で調査に臨むべきか、調査を行う中で並行してイメージを固めていくべきか、どちらがより良いか思案中である。これについて意見をお伺いしたい。

【Ｆ委員】調査結果を解釈したうえで資料編、通史に取りかかるということになるため、実際に調査が行われていない現段階で完成形をイメージすることは難しい。他市の市史編さんに関わった経験から言えるのは、市史編さんでは実際に調査する人員を確保して、どれだけの実働部隊を組織することができるかが重要であると言える。

市史編さんにおけるゴールは通史の刊行だけではない。調査の中で発見した資料をまとめ未来に託すことも市史編さんの重要な役割である。

【土屋委員長】そうであれば自分の中でも整理がつく。今行うことができる調査を行う必要性があると感じた。

【Ｆ委員】また市内の調査と並行して、周辺地域にも目を向ける必要がある。近隣市にあ

る資料の調査・比較などを行い、多角的に調査を行うことで、より立体的に三鷹の特色がわかる。

【土屋委員長】改めて基礎情報の整理が必要である。

【F 委員】インターネットも利用して複眼的に調査を行いたい。調査を行うに当たっては、やはり人員確保が喫緊の課題である。

【土屋委員長】調査するにあたっての人員について、先生方の関係者や学生などご紹介していただきたい。

【大朝部長】すでに何人かご紹介していただいた調査員の方がいるが、翻刻など、とにかく人手が必要な分野もあるため、調査員を確保したい。

また総合調査について、調査への着手方法は部会ごと、総合調査ごとに相談する形になるか。

【F 委員】部会の立ち上げが先決だ。部会間連携はその次のステップになるだろう。

【B 委員】総合調査について、現在上がっているものは分野横断的な調査対象のイメージであると認識している。具体的な調査対象や関係する部会については今後決定していくのであろう。

【土屋委員長】調査を進めつつ、市史編さん委員会で状況報告できればと思う。

【大朝部長】ジャンルによるが、2～4年での調査を想定している。

【G 委員】様々な自治体史に参加してきたが、自治体史を作成するにあたって重要な要素は、自治体がどれだけの予算と時間を用意できるかである。決められた年限の中で必要な人員を確保し活動する必要がある。また他委員の話にもあったが、今ある資料をいかに保存し子孫に残せるかも、考えていただきたい。

【E 委員】市史編さん事業は資料保存の問題とセットで考える必要がある。

【G 委員】調査時の資料の廃棄などが起こらないためにも、アーキビストなどの専門職を正規職員で雇うことも検討してほしい。

【土屋委員長】一定の予算を確保しつつ、時間と予算の問題を常に念頭に置きながら進めていきたい。

【A 委員】様々な市史を参照し、どこでもあまり詳細に取り扱っていない共通の話題がいくつかあると感じた。そのような、まだ深掘りされていないテーマについてもぜひ取り扱ってもらいたい。

【C 委員】今後部会同士の連携は柔軟に行われるであろう。実働部隊を動かすにあたって、市史編さん室に常駐の調査員がいて情報が集約されていく体制は整備されているか。

【大朝部長】今年度より月額会計年度任用職員を3名雇用している。正職員も含めて7名でマネジメントしていければと考えている。

調査員の作業スペースについて、執務室以外に作業部屋を確保している。

【C 委員】実働部隊が作業することができるスペースの確保は自身の経験からも重要であると考えている。

【土屋委員長】補足として、現在市史編さん室は第2庁舎に置かれているが、来年の秋以降、新設される建物への移設が計画されており、専用のスペースも拡充するので、大いに利用していただきたい。

（３）令和８年度の広報 PR 及び普及・啓発活動

（大朝スポーツと文化部長より、資料３「令和８年度の広報 PR 及び普及・啓発活動」について説明を行った。）

【Ａ委員】期待していたものが実現できてよいなと感じる。広報で呼びかけての情報収集について、学区や住区など、対象を絞ってコンクール形式で競わせたりすると効果的ではないか。

【Ｆ委員】市民に対して「情報提供に協力してもらいたい」と伝えることが最も重要なのではないか。チラシや古いパンフレット、写真なども市史に役立つことを知ってほしい。

【土屋委員長】初回の委員会でも確認したが、市民の方と一緒に作っているという認識を共有することが重要であると改めて考える。

（４）全体を通して

（全体を通しての質疑応答。）

【Ｅ委員】動植物や農業に関して、三鷹市にて行われる有識者会議から得られる知見はないのか。

【大朝部長】自然・地形分野について、すでに調査成果をお持ちの機関や先生方にはご協力いただきたいと考えている。法人や民間団体など、古くから三鷹市内で活動する団体の歴史なども、調査対象であると考えている。

【土屋委員長】各種の審議会も市にはあるので、そのような人材のリサーチも必要と考える。

【Ａ委員】戦後以降の農業委員会資料や現在検地帳が未発見な地区の検地帳を探してほしい。

【土屋委員長】部会でご議論いただき、必要なものはできる限り調査し、結果の報告をしたい。

４ その他

次回の日程について 12 月ごろの開催を目指し、改めて日程調整する旨を伝えた。

—閉会—